

(別紙1)《会派用》

令和5年 1月27日

狭山市議会議長  
太田博希様

会派名 自由民主党  
代表者氏名 千葉良秋



## 視 察 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。



代 表 者 千葉 良秋 様

視察者(代表)氏名 千葉 良秋



## 視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 令和5年1月18日～ 令和5年1月20日(2泊3日)
- 2 視 察 先

筑後市、久留米市、熊本市

- 3 調 査 事 項

筑後市

久留米市

熊本市

- 4 視察参加人数 3 人

参加者は次のとおり

千葉 良秋、 田村 秀二、 新良 守克

- 5 調 査 概 要

別紙の通り

(別 添)  
調 査 概 要

**【筑後市概況】**

筑後市は、福岡県の南部の筑後平野のほぼ中心に位置し、博多から新幹線で筑後船小屋まで25分、太宰府インターから八女インターへ40分と交通の便が良い土地である。昭和29年4月1日に町村合併により八女郡羽犬塚町、水田村、古川村岡山村の一部が合併して市制施行され、現在の面積は41.78km<sup>2</sup>、人口49,000人のまちとなっている。

**【調査項目】定住促進事業**

人口の動態

- 1, 筑後市の人口の推移:平成31年まで増加傾向にあったが、それ以後は減少傾向にある。社会増減の推移についても、令和2年まで社会増の状況であったが現在は均衡している。
- 2, 出生率の推移では、全国や福岡県と比べ大変高い数値を示している。平成28年の合計特殊出生率では1.71を示し全国平均の1.44を大きく上回っている。また、未婚率の低さも全国平均、福岡県平均を下回り令和2年では男性22.4%女性14.2%であり全国平均を約4ポイント下回っている。
- 3, 周辺自治体との比較では、八女市や久留米市、柳川市など周辺市において人口減少率が-5%程度であるのに対して、筑後市は1.1%の増となっている。筑後市が選ばれる理由として「結婚」が圧倒的に多い、立地の良さとゆとりの空間を備えた場所が結婚を機に新生活の場として選ばれている。

**筑後市人口の将来展望**

目指す将来の方向

- 1ちくごで働く (希望をかなえる雇用の場を確保する)
- 2ちくごにひとを呼ぶ (筑後市への新しい人の流れをつくる)
- 3ちくごで育てる (安心して子供を産み、育てられるまちをつくる)
- 4ちくごを愛する (豊かな心を育み、筑後市に愛着を持つ人材を育てる)
- 5ちくごで暮らす (安全・安心で活力のあるまちをつくる)

将来の人口展望

- ・将来人口 2045年に46,000人を目指す。
- ・合計特殊出生率 2040年1.96、2050年2.07まで引き上げる。
- ・2025年まで転入超過年80人を維持する。

## 主な定住促進事業

	令和3年度決算(千円)	令和4年度予算(千円)
結婚サポートセンター事業	1,848	1,940
結婚新生活家賃支援事業	15,728	21,146
多子出産祝い金事業	3,900	4,250
マイホーム取得支援事業	18,301	18,420
定住促進プロジェクト事業	1,327	2,482
素敵な出会い応援事業	4,015	4,655
移住支援補助事業	600	2,000
奨学金変換支援事業	0	6,100
合 計	45,719	60,993

予算決算の状況を見ても、移住定住の促進に力を入れていることがわかる。



視察で説明を受ける様子



## 質 疑

- Q、周辺自治体と比べて交通の利便性が高いとしているがどのような状況か。
- A、J R鹿児島本線羽犬塚・博多間55分、九州新幹線筑後船小屋・博多間25分  
九州自動車道高速バス八女IC・博多バスターミナル50分。  
大都市である博多からの交通アクセスが周辺自治体より利便性が高い。
- Q、生活環境が良いとは、どのようなことか。
- A、ほどよく都会で田舎、災害が少ない。市内全域どこでも15分以内、スーパー、  
コンビニ、ホームセンター、農産物販売所などが近距離にある。  
24時間救急対応の市立病院、診療所48、歯科29等病院の数が多い。
- Q、新婚世帯転入増の要因は。
- A、結婚新生活家賃支援や結婚応援事業により家賃や敷金の一部を支援している。  
恋のくに、地域おこし協力隊が恋活事業を推進し市をPR、八女筑後結婚サポ  
ートセンターで結婚後の移住を推進している。
- Q、子育て環境の良さとは。
- A、保育所が23か所あり、待機児童が0人である、中学生まで医療費が無料で  
医療機関も多い、公園が広い、図書貸し出しが多い。

## 考 察

八女高校（筑後市にある）とコラボ企画の動画を配信して市のPRに活用したり HAPPY「移住婚」プロジェクトと称した（株）HISとのわくわく婚活バスツアーを企画したり「恋のくに筑後」のPRを積極的に行っている、創意工夫と職員の努力により、各支援事業も確実にその成果を拡大し市の人口増加を推進している。市の活力のもとが人口の増加にあるとする考えが浸透していると感じた。

## 【久留米市概況】

久留米市は、福岡県の南西部、佐賀県東部を含む筑紫平野の中心に位置し、東西32.27km、南北15.99kmと東西に細長い形をしており、面積は229.84km<sup>2</sup>で、30万人余りの人口を有する県南部の中核都市です。

明治22年の市制施行以来、昭和初期の都市的発展、戦後の復興、昭和40年代の高度経済成長期を経て、平成17年2月5日の1市4町（久留米市、田主丸町、北野町、城島町、三潁町）の合併により、平成27年11月1日現在人口は306,579人、世帯数は130,079世帯となっています。交通面では、九州新幹線、JR鹿児島本線、JR久大本線、西鉄天神大牟田線などの鉄道網や、国道3号線をはじめとする広域幹線道路網に恵まれた北部九州の交通の要衝となっている。

## 【調査項目】久留米市子育て交流プラザ「くるるん」

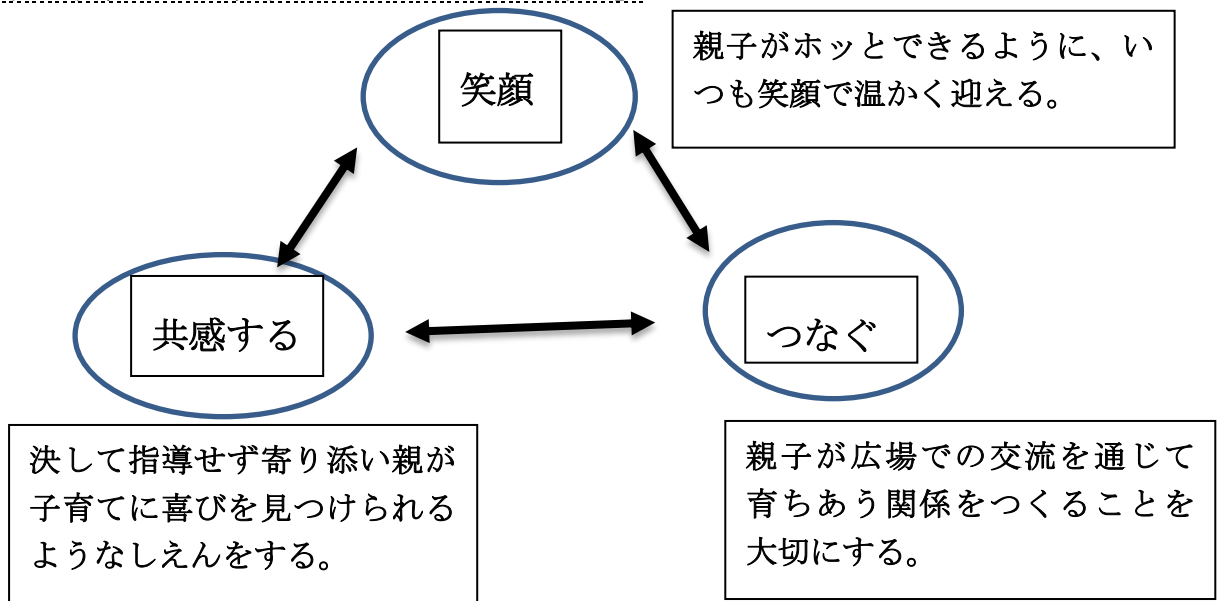
少子化や核家族化などの社会変化に伴い「子育て」の環境も大きく変化している。

「子育て交流プラザくるるん」は久留米市の子育て支援事業の中核施設として平成14年に開設された。平成17年からは久留米市から委託を受けた特定非営利法人子育て支援ボランティアくるるんが運営を行っている。

子育てに対する不安や負担感を解消し、家庭で孤立しがちな子育て中の人たちをサポートしている。保護者同士が交流する機会や相談の場を提供し、寄り添い、見守りながら、保護者が子育ての喜びを実感できるように、子供たちが笑顔で幸せに育っていくように願い運営されていた。

### 1. 運営目標・運営理念

#### 「親と親、子と子、親子をつなぐひろば作り」



乳幼児とその家族がいつでも気軽に遊べるつどいの広場として提供され、子供たちだけでなく、子育て中の親同氏も交流を深め、一緒に育ちあう場所になっている。



## 2. 交流事業

様々なイベントや、おしゃべり会を通して子と子、親と親の交流をはかり、子育ての不安や悩みを共有することができている。

ふれあいベビーマッサージ、わくわくひろば、くるるんひろば、にこにこリズム  
みんなでおしゃべり会など。

## 3. 相談事業

栄養士や助産師による面談での相談や、子育て経験者による電話相談により、育児の不安や悩みを軽減・解消している。

離乳食相談、子育て健康相談、子育てホットラインなど

## 4. 啓発事業

専門家を講師に招いて、子育てに関する学習会や親のリフレッシュのための講座を開催している。

子育てセミナー、プレママ・プレパパ講座

## 5. 人材育成事業

ボランティアを養成する講座や、中高生を対象に子どもとの触れ合いを体験する講座を開催している。

高校生夏休み子育て体験ボランティア、子育てボランティア養成講座の開催。

## 6. 一時預かり保育

保護者が、買い物や通院、リフレッシュするときなどに、3か月未満～未就学児の子どもを一時的に預かり保育をしている。

## 7. その他の事業

一年に一度、ボランティアや子育てサークルによるお祭り「くるるんフェスタ」や幼稚園遊びの選びの情報提供「幼稚園フェア」などが開催されている。



## 【質 疑】

Q、この駅前ビルのフロアは賃借しているのか。

A、賃借料3000万円で借りている。

Q、運営はどうなっているのか。

A、特定非営利法人、「子育て支援ボランティアくるるん」に2,000万円で運営を委託している。備品と図書コーナーは市の直営である。

Q、避難訓練などはどうしているのか。

A、避難計画に基づいて年2回実施している。

Q、ボランティアスタッフの募集はどうしているのか。

A、養成講座から実習を経てボランティアになる、保育の補助をしている。

## 考 察

広いスペースで子供たちはのびのび保育が受けられていた。ボランティアもスタッフも明るく笑顔で働いていたのが印象的であった。育児の相談や交流スペースでの親同士の触れ合いやイベント、預かり保育など一元化した子育て支援施設であり有用性を感じる。



# 熊 本 市

## 地域力パワーアップ大作戦について (地域と企業を結ぶまちづくり応援事業)

### 【市の概要】

熊本県のやや北部に位置し、熊本県の県庁所在地で政令指定都市である。熊本市は、西区、北区、中央区、東区、南区の5つの行政区が設置されている。

市制施行 明治22年4月1日

人口 736,329人 (令和4年4月1日現在)

面積 390.32Km<sup>2</sup>

### 【事業の経緯】

令和3年度に複数の市内企業より「会社として地域に貢献したい」との相談があった。また反面に東区まちづくり懇話会においても「つながりの輪を深めるには民間企業からの協力が必要」等の意見が出されており、地域ニーズも高いと感じ事業化したもの。

### 【事業内容】

これまでに約30企業より「東部まちづくり応援“縁”団」の登録があり、業種は「金融機関」「医療機関」「飲食店」「バス会社」「葬儀社」等多様な協力体制である。

特に、企業側からの支援については、「地域団体が主催する人的支援」「企業施設やグラウンド等を地域行事の会場としての提供」「企業が保有するスキルやノウハウを生かした講座の開催」がある。

企業側のメリットとしては、「認知度や企業イメージの向上」「地域課題やニーズを直に把握できる」「自治会や他団体との関係性の構築により地域活性化に貢献できる」等があげられる。

また、毎月1回の意見交換のためのワークショップを開催し、新たな地域課題や取り組みについて話し合いを行うことにより、コミュニケーションが図られている。

説明を受ける様子



### 【考 察】

積極的な市内企業の声拾い、東区まちづくり会の意見をまとめ低予算（約70万円）で速やかに実行に移す東区役所東部まちづくりセンター職員（4名）の行動力に驚かせられた。

潜在的な地域貢献を見通し、企業ニーズを取り入れた「地域力パワーアップ大作戦」を参考に、狭山市においても企業と地域との体制づくりに新たな活力を見出せると大きな期待をしている。